

平成25年 第8回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 平成25年8月22日(木) 午後2時00分～午後3時40分
2. 場 所 総合教育センター 2階 講座室
3. 主 宰 者 委員長 滝内 秀昭
4. 委員の出席 滝内 秀昭 川畑 徹朗 廣山 義章 小林 万理子 木下 誠
5. 委員の欠席 なし
6. 傍 聴 人 1人
7. 関係者の出席
- |            |       |            |       |
|------------|-------|------------|-------|
| 教育長        | 木下 誠  | 保健体育課長     | 早崎 潤  |
| 管理部長       | 谷澤 伸二 | 学校給食センター所長 | 松浦 洋一 |
| 学校教育部長     | 太田 洋子 | スポーツ振興課長   | 谷 泰史  |
| 生涯学習部長     | 田中 裕之 | 公民館長       | 池田 真美 |
| 教育長付参事     | 大西 俊己 | 図書館長       | 田中 茂  |
| 学校教育室長     | 峰松 誠治 | 博物館長       | 亀田 浩  |
| 総合教育センター所長 | 江原 礼子 | 人権教育担当主幹   | 松山 和久 |
| 学校教育部副参事   | 村上 順一 | 中学校給食推進班主幹 | 田中 康之 |
| 生涯学習部副参事   | 小長谷正治 | 生涯学習部主幹    | 善入美津治 |
| 人権教育室長     | 大野 浩史 | 少年愛護センター所長 | 倉島 正佳 |
| 職員課長       | 升井 竜雄 | 保健体育課副主幹   | 入江 宏樹 |
| 施設課長       | 田原 安治 | 教育総務課長     | 中井 秀典 |
| 教育施策企画担当主幹 | 花光 潤一 | 教育総務課副主幹   | 乾 義昭  |
| 学校指導課長     | 春名 潤一 | 教育総務課      | 山本 逸美 |
| 学校改革・学事課   | 大村 寿一 |            |       |

8. 議 事

(1) 開会宣言 滝内委員長(午後2時00分)

(2) 日程報告 滝内委員長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員これを了承。

- |     |   |           |
|-----|---|-----------|
| 日程第 | 1 | 前回会議録の承認  |
| 日程第 | 2 | 教育長報告     |
| 日程第 | 3 | 議案第44号の審議 |
| 日程第 | 4 | 議案第45号の審議 |
| 日程第 | 5 | 議案第46号の審議 |
| 日程第 | 6 | 議案第47号の審議 |
| 日程第 | 7 | 議案第48号の審議 |

滝内委員長から「議案第47号、議案第48号は人事案件であるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項の規定に基づき非公開にしたいと思いますが、よろしいでしょうか」との発議があり、全委員はこれを

了承。

議案第47号、議案第48号は非公開の秘密会となる。

(3) 前回会議録の承認（日程第1）

平成25年第7回伊丹市教育委員会定例会（平成25年7月18日〈木〉開催）の会議録については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

教育長の指示により、管理部長より「8月分人事報告」・「7月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「7月分寄附採納報告」について、学校教育部長より学校教育部の、生涯学習部長より生涯学習部の、人権教育室長より人権教育室の、教育長付参事より中学校給食推進班の、「7月分行事実施報告」「9月分行事実施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

木下教育長

7ページの総合教育センター。夏季休業中は、教職員の資質の向上を目的に数多くの研修を実施していただいた。先日、日本教育新聞を読んでいると、学習塾等を始めとする民間教育機関の方が、学力向上について回答したアンケート調査が目にとまった。アンケート調査の中で圧倒的に多かったのは、「教員の資質の向上」で、次が「授業日数の増加」であった。学習塾等の民間教育機関の方々には、いかに「教員の資質の向上」を大事だと考えていることがわかる。総合教育センターで各研修参加者等集計していると思うが、現時点でどれくらいの教員が参加したのか、できれば校種別に教えてほしい。

村上副参事

この夏の総合教育センターの研修については、本日も研修を行っているため昨日までしか集計できていないが、24年度には夏季休業中に44回の研修を開催していたところ、本年度は数が増え、今のところ48回実施している。校種別の参加人数は幼稚園が199名で昨年度と同人数。小学校では986名で、昨年度の929名から60名弱増えている。中学校は631名で、昨年度の566名から65名増加。高等学校は63名で、昨年度の20名から43名増えている。特別支援学校も昨年度の12名から26名に増加しており、のべ人数では、昨年度の1,726名に対して本年度は1,905名といまのところ179名の増加、割合でいうと約110%、つまり1割くらい増加している。本日も研修をしており、学校園に出向く研修も残り14回を予定しているので、終わればそれらの人数を加えた参加人数等についても報告する。

- 木下教育長 20代、30代、40代、50代というような参加者の年代は、今後集計されるのか。
- 村上副参事 その予定。次回併せて表にしてお示しする。
- 木下教育長 特に、今年力を入れた研修はあるのか。
- 村上副参事 今回は、昨年度からいじめ問題や体罰等についての問題がたくさんあったので、いじめの防止を中心に「心の理解講座」という5回シリーズの研修会を行った。1回目については川畑教育委員に講演をしていただき、残り4回の中ではストレスコントロールや、人間関係作りについて、子どもの理解や集団作り、保護者の信頼を得られるような接し方についての研修を行い、受講者からは「保護者との接し方を学んだ」、「2学期からすぐに活かしていきたい」という感想が寄せられた。また、子どもたちの学力を上げていくために、「情報教育研修会」では、実物投影機等を使いわかりやすく教材を提示することで、子どもたちに十分な理解を図っていく「大きく写してわかる授業作り」という研修も行った。この研修会では、教科ごとのグループや、学年ごとのグループを作り、実際に持ってきた教材を写して、授業の展開方法を具体的に探り、2学期から実際に使えるようにした。また「保護者と教師のための講演会」や、京都市教育委員会の教育企画監を講師としたキャリア教育についての研修も行った。キャリア教育についての教職員の意識を高めるにあたり、職業教育ではなく、生涯を通じて小さい頃からどのような力を付けていくことが大切かという説明をいただいた。
- 滝内委員長 私からも1点。14-1ページ。博物館がことば蔵で展示をしたと説明してもらったが、諸展示の項目で2万49人と非常に大きく来館者カウントが上がっていることは大変喜ばしい。博物館を持っている市町村は近隣では少ない中、より関心を持っていただくよい取り組みだと思う。人の集まる所でアピールすることが効果的であるのが端的に数字として表れている。これからも機会を見つけて取り組んでもらえればありがたい。
- 亀田館長 このような外に出て行く取り組みを積極的にやっていきたいと思っている。これは、ことば蔵が開館した昨年度より始めている事業だが、特に今回は、夏のいい時期にギャラリーといういい場所で行うことができた。また、11月頃のロマン事業の1つとして、図書館と協議し、有馬城の検証等、博物館で行ったものを巡回する形で行っていきたい。もちろん博物館にも来ていただきたいし、私たちの展示をたくさんの方が来られる場所に持っていくことで、更なる利用者を開拓することもやっていきたい。
- 滝内委員長 よろしくお願ひします。

(5) 議案第44号の審議（日程第3）

滝内委員長より「議案第44号 平成25年度第2回教育関係費補正予算要求の申出について」を議題とする旨の発議がなされ、教育長から、「指定寄付金の採納に伴い、歳入、歳出予算の補正が必要となったため、平成25年度第2回教育関係費補正予算要求として市長に申し出ようとするものです」との説明がなされ、管理部長より、補足説明があり、質疑応答なく、全委員一致で「議案第44号」を可決。

(6) 議案第45号の審議（日程第4）

滝内委員長より「議案第45号 平成24年度伊丹の教育〈成果報告編〉について」を議題とする旨の発議がなされ、教育長から、「平成24年度の教育委員会の事務の管理及び執行状況についての点検・評価の結果を「伊丹の教育〈成果報告編〉」として作成しようとするものです」との説明がなされ、管理部長より、補足説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「議案第45号」を可決。

質疑応答

廣山委員 何度か協議してきて、見やすいものに集約してもらった。2人の評価委員の方からも、進展している、来年度に向けて伊丹の行政の動きと学校教育の動きをもっと簡便に見やすい形にしながら市民にアピールできるものにしていこうと所見をいただいているが、そのように次に向けて行ってほしい。随分、わかりやすいものをありがとうございました。

小林委員 6ページの改善していただいた矢印の説明だが、最初に見たとき、まず表の方を見ると思うので、こちらの※印のように<↑>と<↓>の説明を、表のページにも載せた方がわかりやすく親切だと思うが、2回書くことになるのでお任せする。ここの説明だけで矢印を見つけだすのは難しい。数年前に連合PTAに出席していた時、すごく分厚いこの資料をいただいた。学校の代表で行ってはいるが、とても分厚いので中身を見ずに学校の本棚になおしていた。今は、これだけ薄く、パッと見たときにだいぶわかりやすくなったので、少し読んでみようという気になる。教育委員会として取り組んでいることが身近に感じられるようになったのではないかと思う。

滝内委員長 先ほどの<↑><↓>だが、全体を通しての説明を6ページにまとめて書いているのでそれでよいのでは。今後もこの形をとっていくのなら来年検討する事にし、今年度は評価委員の所見にもあるように、プラス指標、マイナス指標を設けてもらい、このような形をとったということではないか。

木下教育長 改善を重ね非常に見やすくなってきた。ここに示された結果について、

結果で終わるのではなく改善をしていくことが大切。全ての者が結果を共有し、具体的な施策を通して改善していくことを繰り返していかなければ評価の為の評価に終わる。例えば、学力、不登校、問題行動、体力、いずれについても、結果、課題、改善策を現場や保護者に届けて、実践していくことが大切である。改善のための評価として活用しなければいけない。

川畑委員 教育長がおっしゃったように PDCA サイクルの A が大切。成果指標も読みやすくなっており、どこに課題があるか見やすい。それを具体的にどのように行動に結び付けていくか考えていけばいい。例えば、山内評価委員もおっしゃっているが不登校、いじめ、体罰等の子どもたちの心の問題が、特に中学生を中心としてあまり改善されていないことが見えてきた、その辺りを今年度から来年度にかけて、具体的にどのようにやっていくのかということに活かしてもらいたい。また、今回の調査を活かして、子どもたちの心のポジティブな指標としていい指標を見つけてほしい。是非、これを活かしてほしい。

滝内委員長 私が教育委員に就任した平成19年度版は169ページあった。20年度は167ページ、21年度は163ページ。重点目標編と対になる形でかなり厚い本であったが、22年度を境に22年度、23年度と簡潔化していき、そして今年、24年度は26ページまで簡潔化してもらった。これでこそ、「はじめに」の言葉にある「広く市民に対して評価結果を開示する」という目的が達せられたのではないかと実感した。今まで評価委員に書いていただいたものを遡って読み返してみると、やっと講評するに値する、つまり自分たちの成果を報告するのに対して、読んでいただける姿勢ができていくというニュアンスで読ませていただいた。各課並びに管理部でまとめてもらった結果、このようになったことを厚く感謝する。細かい指摘にも対応してもらったことも感謝する。非常にいいものができたと思っている。

#### (7) 議案第46号の審議（日程第5）

滝内委員長より「議案第46号 伊丹市中学校給食導入検討委員会への諮問について」を議題とする旨の発議がなされ、教育長から、「9月に設置を予定している伊丹市中学校給食導入検討委員会へ中学校への給食導入について諮問しようとするものです」との説明がなされ、中学校給食推進班長より、補足説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「議案第46号」を可決。

質疑応答

滝内委員長 諮問文についてもこれでいいのか。  
木下教育長 いつも市民等に説明する時に挙げている内容の中に、ここに記載されていないものとして、市民からの要望が増えてきたことや、市長の公約等があるが、諮問文の中に記載する必要はないのか。  
大西班長 諮問文の中では具体的に記載はしていないが、説明資料の中でパンフレット等を用いて説明させていただき、口頭で補足をさせていただきたいと考えている。

(8) 議案第47号、議案第48号の審議（日程第6、日程第7）

秘密会で審議の後、全委員一致で、「議案第47号 伊丹市中学校給食導入検討委員会の委嘱または任命について」及び「議案第48号 平成25年度伊丹市奨学生を決定することについて」を可決。

(9) 閉会宣言

滝内委員長 （午後3時40分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育委員会委員長

滝内 秀昭

伊丹市教育長

木下 誠